

I. 授業のテーマと目標

以下の評価基準を満たした修士論文の執筆に向けて、研究指導を行います。

1. 論文に対して誠実かつ真摯に取り組んでいること。
2. 仕事で抱いた問題意識に関連したテーマを設定していること。
3. 現実に対して意味のある結果と含意を導出していること。
4. その結果と含意を導くプロセスが信頼に足り、説得力があること。

MBA では研究のための研究をしても、意味がありません。必ずしも学問的な意味での厳密性は求めません。

しかしながら、解くべき問題を明確に絞込み、そのための適切な方法を選択し、定量あるいは定性の意味あるデータをエビデンスとし、揺るぎないロジックを持ち、適切に執筆されている必要があります。それがなければ、説得力は生まれません。

各自が MBA 生活の集大成、つまり「作品」と思える論文を書き上げてほしいと願っています。そのような論文は、自分の所属する組織に対して必ずやインパクトを与えたいと思います。

II. 授業計画

第1回 2017年8月5日

この日までに百田尚樹著『海賊とよばれた男』（講談社、2012）を読んで来てください。

まず、全員の自己紹介をします。そこでは、上記の本の感想、得た学びも教えてください。

次に、各自の研究プロポーザルを A4 で1枚（裏表）にまとめ、10分で発表してもらいます。そこには、

- ① 研究テーマ（必ず疑問形となるように設定してください）
 - ② なぜ①は問う価値があるものか？（実務上の困難、矛盾、トレードオフなどを切り出してください。また、それは願わくば、自社のみならず、広がりのあるテーマであってほしいです）
 - ③ どのような研究方法（社内のデータを使った分析、質問票調査、インタビュー、観察、アクションリサーチなど）を採用するのか？
 - ④ どのような結果が予想されるのか？
- を記してください。

各自の発表の後で、研究についての概論、論文の構造、研究の進め方についてのレクチャーを行います。

その際、拙著『アメーバ経営論』（東洋経済新報社、2003年）を使って説明します。

事前課題として、この本全体の構造、各章の果たしている役割についてA4で1枚（表のみ）にまとめておいてください。

終了後に懇親会を行いましょ。う。

飲みながら、しかし、まじめに研究について語ります。そちらも積極的に参加下さい。

第2回 2017年9月23日

この日は午前中に、各自の研究プロポーザルをA4で1枚（裏表）にまとめ、5分で発表してもらいます。

午後のポスターセッションの後で、教室に集合し、学ぶべき点などについて討議しましょ。う。

終了後に懇親会を行いましょ。う。

第3回 2017年12月23日（～24日午前）

出来ればこの日はどこかの施設で合宿にしたいと思います。

各自の研究プロポーザルについて発表してもらいます。

また、過去のMBA修了生に参加してもらい、彼らの論文および執筆プロセスについての発表してもらおう予定です。

23日の夜は懇親会を行いましょ。う。

それ以降については追ってお知らせいたします。

III. メッセージ

演習は、自分の研究テーマを追いかけることは当然ですが、他のゼミ生の研究に対しても積極的にコメントし、協力してください。

修士論文はどうやってもしんどいに決まっています。

せっかくやるなら、世のため、人のためになる、大義ある研究をしましょ。う。